発達支援コラム No.28

焼津市の通級指導教室（ことばの教室・まなびの教室）の担当者として、
多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で
大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、
わかりやすい言葉で書いていただきました。

「本読みのバリエーション」

通級指導後の保護者面談時に話題となった内容です。

毎日の宿題の「本読み」についてです。本読みが得意な子・・・なめらかに読み進められる子、読みながら意味理解を深められる子などがいる一方で、一文字一文字を拾いながら必死の思いで一行をおわらせ、一頁をおわらせ、一つのお話をおわらせていく子、けっしてふざけているわけではないのに文の途中の読み飛ばしや文末の読み間違いを何回も何回も繰り返してしまう子などがいます。自分を振り返ると、私は本読みの宿題が好きな子でした。

ただでさえつらい本読みを毎日行わなければならないことは子どもによってはかなりの負担となっています。いやいやしょうがなく続けるのと苦手でも意欲的に続けるのとでは、やはり苦手でも意欲的に取り組める方が効果があると思います。

そこで、宿題の本読みのバリエーションを考えてみました。

「交互読み」…　子どもと保護者とが交互に読み進めていく。交替は、一文ずつでもいいし、前の人がとまった続きからでもいい。苦手なことを自分だけがやらされている感を小さくすることができる。相手を意識する練習、文字を追う練習にもなる。

「段落読み」…　子どもと保護者とが段落ごとに交替しながら読み進めていく。段落を意識する練習にもなる。

「復習読み」…　今日、授業で学習した範囲を一人でまたは保護者と交替で読む。

「予習読み」…　明日、授業で学習する範囲を一人でまたは保護者と交替で読む。

どの方法も、「量より質」をめざした本読みとして、時々保護者に提案している内容です。苦手ゆえに量にまいってしまうことがあります。その他にも…。

「読み聞かせ」…新しい単元に入る前に、保護者が一度読んで聞かせる。耳慣れないことばや使い慣れないことばの読みに苦労することが多いので、「聞いたことがあるな。」と記憶に残ればその後が楽になる。

「解説読み」…新しい単元に入る前に、保護者が一度読んで聞かせ、さらに登場人物や場面の展開について実況中継をする。文字を追うことにエネルギーを使い果たしてしまう子には、事前にわかっていることでその後の学習や本読みに意欲的になれることがある。子どもの実態にもよるが、保護者に「学校で初めて教科書を開かせることはしないようにしよう。」と提案することがある。反対に、子どもの実態により、「学校で初めて教科書を開かせよう。」と提案する場合もある。

このほかにも、本読み（宿題）のバリエーションはあるのではないでしょうか。
そんなことを考えるのが楽しくてたまらない私です。